

第199号

平成23年1月10日

病 院 だ よ り

International Goodwill Hospital

新年を迎えて

村井 勝

肺がん～早く見つけるために～

大岩 加奈

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡1-28-1
TEL 045(813)0221 (代表)
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト



新年を迎えて



新年明けましておめでとうございます。

当院は国際親善病院としての開設は昭和21年ですが、その前身は横浜関内(外人居留地)にできた1863年の横浜パブリックホスピタルあるいはその後改名された1867年の横浜ゼネラルホスピタルとされております。いずれにしても長い歴史を有する本院は平成2年西が岡へ新築移転し、本年で22年目を迎えます。あらためて、これまでに地域医療機関さらには患者様からお寄せいただきましたご支援とご指導を深く感謝申し上げます。

当初は斬新な建物と機能的にも優れた病院として皆様に親しまれてまいりましたが、ここ数年の医療環境の変化も手伝い建物の狭隘化、設備の老朽化がみとられています。数年前より地域中核的急性期病院としての役割維持・向上のために積極的に病院のソフト、ハード両面にわたる再整備拡充計画を開始しております。診療を継続しながらの再整備ゆえに諸種の制約を伴い、その計画実施には時間を要しております。昨年度は血液浄化・透析センターと人工膝関節センタ

ーを開設いたしました。また11月にはこれまで入り口ロービーホール一角のカウンター内で業務を行っておりました地域医療連携室と地下1階にありました医療福祉相談室を1階の待合ホールに面する1室に移設致しました。これにより皆様からのご相談の対応や、地域医療機関との連携活動がよりスムーズになることが期待されます。今年度はオーダーリングシステムの更新と懸案であります電子カルテを導入すべく準備を進めます。さらには院内老朽化設備の改修と狭隘化が顕著な部署の再配置を手がけます。同時に患者さんの入院環境、アメニティの改善も図ってまいります。これらの整備には可能な限り、皆様にご不便、ご迷惑をおかけせぬ様心がけたいと考えます。良質な医療、親切な医療、信頼される医療の実施を理念として掲げる当院の職員一人ひとりが医療人としての誇りと喜びを感じることが出来るよう病院全体で研鑽を続け、常にチーム医療の推進を心がけます。

私たちの病院は不幸にして病を得た方々の立場に立ち、ともに病に立ち向かうという医の原点を追求することを通じ、広く社会に奉仕致す病院であり続けたいと願います。本年も皆様のご指導・ご支援を得まして、さらに信頼される病院となるよう努力致す所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

病院長 村井 勝



あけましておめでとらうござりませ

～2011年の抱負～

今年も病気で悩んでいる人の立場に立って、自らの病院における医療の質を各診療科にて評価し、医師・看護その他すべての職員により、質の維持・向上をしていきたいと思っております。

副院長 飯田秀夫

助けを求める人たちの立場になるという医療の本質から、救急医療がまさにその原点と思っております。今後とも皆様の御指導・御協力を宜しくお願いいたします。

診療部長 清水 誠

森英雄前理事長は、20年前の開院にあたり「病診一体となって地元へ奉仕するほかに将来とも我々の生きる道はない」と述べています。この志を継承する責務が私達にはあります。

看護部長 松田慶子

旧年中は一方ならぬご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年も昨年に倍して皆様の期待に応える様、努力して参ります。

事務部長 武井主税

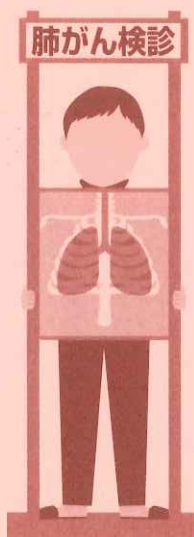
健康懇話会

肺がん～早く見つけるために～

肺がんは、わたしたちが生きていくうえでかかせない「呼吸」を行っている「肺」という臓器にできた「がん（悪性腫瘍）」であります。「がん」と言いますと一昔前までは、不治の病と恐れられていたものですが、近年医療技術の進歩により少しずつではありますが治るケースが増えてきております。

しかし、それでも肺がんの多くの症例がいまだに進行した状態で発見される事が多いのが現状です。しかも肺がんは、ここ10数年で年々増えてきた病気です。それまでは日本人に代表的ながんといえば胃がんでしたが、1998年に一年間の肺がん死亡者数が胃がんの死亡者数を上回り、現在も増加傾向（2009年のわが国での肺がんによる死亡者数：男性49,022人、女性18,546人、合計67,568人）を示しています。

肝
心
な
の
は
早
期
発
見



肺がんと闘い勝つためには早期発見がかかせません。無症状のうちに発見することが大切です。肺がん検診の普及により早い段階で肺がんが発見されることが増えてはいるものの、一方では進行した状態で初めて病院へ来られる方も少なくありません。肺がんにとって検診が如何に大切で重要かをこの機会に実感していただき、実行していただきたいと思えます。

また、肺がんの基本的知識についても合わせてお話をさせていただきます。

呼吸器外科医長 大岩 加奈

ご案内

このテーマは

平成23年2月18日(金) 15:00～約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)